

## ソヴェト国家の現状

### 1922年3月27日の演説のプラン\*

\*第九回党大会へのロシア共産党(ボ) 中央委員会の政治報告のプランのこと

一、……………

二、ネップ。この「問題」の主要な点は、

(イ) 農民経済との「結合」の点検。

三、(ロ) 国有企業と資本主義企業とを(商業企業も、工業企業も。ロシア人の企業も外国人の企業も)競争によって点検すること。

四、(ハ)「国家資本主義」。この言葉の革命的および実践的意義、対、スコラの意義。

(国家資本主義。国家とは「われわれ」のこと)。

……………

一二、総括。ネップで勝利するための手段は、われわれに十二分にある。政治的なそれも、経済的なそれも。問題は「ただ」文化性にある！

一三、『白衛派(メンシェヴィキ、エス・エル一派をふくめて)は、この点に、彼らになにか有利な点を見ている！ むだなことだ！ 成しとげたものと、成しとげられなかったものとの概観することは、非常に有益である。すなわち

(α) 組織され民主主義革命、と「彼ら」は言う。彼らに反対(400年の汚物を4年間で！)

(β) 戦争から抜けだす。反動的な戦争から革命的方法によって、抜けだす。だが、彼らのところでは？

(γ) ソヴェト国家。世界で最初のもの。新しい時代。最初の蒸気機関よりも出来が悪い!!

三者は不可分。

第四の、主要なものは、成しとげられていない。社会主義経済の土台。何度でもつくりなおす。

一四、いま「鎖」のどの「環」をつかまえなければならないか？

1917年——戦争から抜けだすこと。

1918年——憲法制定議会、対、ソヴェト国家。

1919年と1920年——侵攻にたいする反撃。

1921年——農民への経済的接近。経済政策の探究。

1922年——眼目は機関や組織がえや新しい法令にあるのではなく、人間に、実行の点検にある。人物の選択と実行の点検。

三つの条件。

(α) 干渉がないということ。メンシェヴィキとエス・エルについては、政治的表示のかどで射殺。

(β) 財政的危機があまりひどくならないということ。

(あまりひどくはない？ 国営トラストの粛清)。

(γ) 政治的誤りをおかさないこと。

一五、「現在の眼目」(鎖の環) = 課せられた任務の大きさと、貧困との隔たり。物質的な面だけではなく、文化的な面でも。

一六、大衆の先頭にいなければならない。そうでなければ、われわれは大海のなかの一滴である。「法令による宣伝の時期」は過ぎさった。大衆は、実務的・実際の活動を、経済活動と文化活動での実際的成果だけを理解し、評価するであろう。

ΣΣ = 人物の選択と実行の点検！

---

#### 補足

一、ソヴェト機関、対、党。(些細なことから解放すること。ソヴェト活動家の責任を高めること)。

二、全ロシア中央執行委員会は？ 会期の延長。審議をもっと慎重に。点検をもっと綿密に。

三、人民委員会議と労働国防会議。私の代理 (リュコフとヴィルヘルム二世の利益)。

1922年1月以降の文書往復。実行の点検、引きしめ、上からの粛清。

四、人民委員会議。権威をたかめ、些細なことから解放する。

五、労働国防会議。地方経済会議の活動の発展と拡大。

六、小人民委員会議。同じく些細なことから解放すること。指令の草案 (中央委員会の委任により) が上程されるであろう。 注)……………は青山の略

第36巻『1922年3月27日の演説のプラン』P676～680

1922年3月27日以前に執筆

#### ポイント

ソヴェト国家。世界で最初のもの。新しい時代。最初の蒸気機関よりも出来が悪い!! 今必要なことは、人物の選択と実行の点検。

そして、大衆の先頭にいなければならない。そうでなければ、われわれは大海のなかの一滴である。